



メリークリスマス & ハッピーニューイヤー

教会の「受肉」

ニュージャージー日本語

キリスト教会牧師

錦織 学



ご家族の皆さんと共に

四月七日の朝、東日本大震災後間もなく日本に飛んでいった妻と、電話で話をしていました。妻はボランティアの看護師として宮城県の塩釜の病院に滞在していました。日本はもう深夜、そろそろ休んだ方がいい、と電話を切ろうと思っただそのとき、あ、地震！地震！背後では棚がぶつかる音でしょうか。ガシャガシャと音がしています。そして、地震！あ、大きい！怖い！”と言ったところで、ブチッと電話が切れました。そのあと、何度電話をしてもつながりません。震度六でした。

十五分ほどすると、大丈夫”という携帯メールが届いてほっとしたのですが、その十五分がとて長く感じられました。三月十一日にはその「大丈夫」の連絡を、一日、二日、三日、一週間、二週間と待ち続けた方々がたくさんおら

れたことを思うと、そして、今もなお待っておられる皆さんがられるかと思うと、胸が締め付けられるような思いがします。

この秋、私自身、日本へ短い訪問をしました。その間に何人もの方々から、もう、自分たちは忘られてしまったのではないか。という声を聞きました。被災者の方々は、本当に私たちの想像できないような深い喪失感の中におられます。そんな現実の中で私たちは何ができるといえるのでしょうか？

暗やみの中に歩んでいた民は、大いなる光を見た。」

（イザヤ書九章二節）

クリスマスは、私たちのこの世界の闇の中に、光としてきてくださった神の子キリストの受肉を感じ謝し、お祝いする時です。日本では若者たちは、恋人とクリスマスをお過ごし”という風潮がありますし、アメリカでは、クリスマスは家族で祝うもの”という伝統があります。そんな中で、痛みの中にいる人たちにとっては、かえって自分たちには関係ない。”と孤独を深める季節だとも言われます。しかし、クリスマスは決して万事順調、順風満帆の中で起こった出来事ではなく、絵に描いたような幸せの中にいる人々への贈り物でもありませんでした。まさに暗闇の中を歩む人々へのメッセーじなのです。

今年は特に思わされていることがありません。それは、この世で疎外され、居場所のなかった人々と共に歩まれたイエスが、十字架に架かり、復活され、天に昇られたあと、教会が、キリストのからだ”として、キリストを表す存在としてこの地上に使命を与えられたということなのです。

教会は、このクリスマスの時に、ただ、神の子キリストが私たちのために受肉してくださった。”という恵みとして味わうだけでいいのでしょうか？それを言葉で、神様はこんなに私たちのことを愛してくださいました。”と伝えるだけでいいのでしょうか？そうではありません。イエスが私たちを愛してご自身を与えてくださったように、教会は人々を愛し、教会自身を与える使命があるので、実際、被災地には、人々に寄り添い、人々の生活の再建のために共に歩もうとしておられる教会もあります。本当に尊い働きだと思えます。アメリカにある日系教会である私たちも、今年のクリスマス、キリストの「受肉」を語るだけではなくて、教会が「受肉」する時として用いられますように。



子供の頃、私の周りでクリスマスを祝う人々はあまりいませんでした。そんな中で、私は田舎の小さな教会の日曜学校に通っていました。クリスマスというと、思い出すのが、お祝いのために用意されたごちそうです。それは、大根と人参のなますと混ぜご飯だけの質素ながら、心のこもったごちそうでした。それを礼拝に使っていた畳の部屋に座って皆で頂いたのです。五十年以上も昔のクリスマスの思い出です。



青年の頃には、上京して、大きな教会に行くようになりました。聖歌隊に入り、クリスマス・カンターターを賛美しました。練習が楽しかった事、賛美の中に聖霊なる神様の臨在を感じて心が踊った事など、たくさん恵みがありました。ある年のクリスマススイブには、喫茶店を借り切って、コーヒを飲みながら若者向けの伝道集会を行った事もありました。青年会の活動はとても楽しいもので

した。

献身して聖書学院に入り、卒業後、島田直師と結婚しました。それ以来、毎年クリスマスに家族で記念撮影をするのが我が家の行事のようになりました。写真を見ると、その年のクリスマスの出来事を思い出します。日本の教会では、クリスマスはとても忙しい時期です。伝道のために色々なイベントを計画します。そんな中で牧師家庭の子供たちは、教会の諸集



島田師ご一家
知子夫人は前列右から二人目

会のために後回しにされがちになります。それではいけないと反省し、ある年、家族だけのクリスマス会を計画しました。おいしいケーキも用意して、賛美と共に始めました。降誕劇のようにして、みんなで聖書を読もうと試みました。競争心のある年子と双子が入り交じっている四人の子供たちは、誰がどの箇所をどれだけ読むか、誰が一番上手に読めるか、更に、誰が一番大きなケーキを食べるか

争いはじめ、初めての家族のクリスマス会は、にぎやかな兄弟げんかとなってしまいました。振り返ってみると楽しい思い出です。今、子供たちは家を出て、それぞれの生活を送っています。

今、一人静かに、これまで何度も訪れたクリスマスの時を振り返ってみると、神様への感謝で心は溢れます。二千年前のクリスマスMASの出来事が私の人生を限りなく祝福あるものへと変えてくれたのです。

エデンの園でサタンがエバを誘惑したとき、神様が「善悪の知識の木の実」を食べてはいけないと言われたのに、サタンは「それを食べれば神のようになれる。」とエバにささやきました。エバがその木を見ると、目を引き付け、賢くなるように唆「そそのか」していた。」と聖書は記しています。その実を食べてしまったエバの子孫である私は、神の戒めを忘れて、賢くなること」神のように素晴らしいと誉められること」に魅力を感じ、それを求め続けていました。そのような外れの生き方をしていた私のために、神様は人となって、この世に来て下さいました。人間にすぎない私が、神のようになって誇りたいと思っていたのに、神様であるお方は人となって、二千年前にこの世界に生まれてくださいました。私を含め、すべての人を救うために十字架にかかって、

私たちに永遠の命を与えるために。この事を知ってから、私にとつて、クリスマスは神様の大きな愛に感謝し、心の底からの喜びを表現する時となりました。さて、今年のクリスマスは、どのように過ごそうかと思案中です。

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ三章十六節)

第 63 回 JEMS マウント・ハーモン修養会

期日：2012年7月1日(日)午後2時～
7月7日(土)正午

場所：マウント・ハーモン・クリスチャン・センター

日語部講師 黒田朔師

登録受付開始：2012年2月1日

登録申込み用紙

JEMS のウェブサイトにて2012年1月下旬からダウンロードできます。

www.jems.org

各教会、個人にも送る予定です。

早めに登録申込みください。

問い合わせ：電話 213-613-0022

e-mail: minakof@jems.org

ブラジル親善旅行に参加して



ノースフリーズノ教会
ジャバニーズ・チャペル牧師

藤井 肇

十月七日から十八日まで九名の方々と一緒に、全員が初めてというブラジル旅行を体験してきました。ブラジル日系キリスト教連盟（BNCF）のお招きで当初予定していた計画を一年早めて実施したのです。JEMSの後援を得て、中馬先生の挨拶状を持参しました。BNCFは実行委員会を組織し、綿密な計画を練って下さり、中身の濃い有意義な旅となりました。新理事長の佐藤先生はつきっきりでお世話をしてくださいました。



ロスアンゼルスから直行便に乗り、十二時間かかってサンパウ

ロに到着。すると突然のスコールと共に、今まで体験したことがないほどの大落雷の洗礼を受けて、まさにブラジルに着いたのだという実感を味わいました。歓迎会を開いてくださり、ブラジルの建国や日本人の移民と伝道の歴史などを紹介していただくなど、温かいもてなしを受けました。ホテルに四泊し、後はホームステイとなり、ブラジルの家庭の雰囲気味わうことができました。

着いた翌日は日曜日でしたので、それぞれのホームステイの方の教会で礼拝を守らせていただきました。私は、第一週は黒木先生、第二週は徳植先生の教会で礼拝説教の奉仕をしました。二つの教会共に、ポルトガル語と日本語のバイリンガルの礼拝を持ち、若い人たちが多く、日本語の賛美歌やゴスペルをローマ字で歌っておられたのが印象的でした。礼拝の後、教会の方たちと昼食を共にし、長年の知己のような交わりができました。

十日には、サンパウロから南へ二時間半下ったサントスの港町へ行きました。当地で日本人伝道をされている鈴木先生が案内して下さいました。日本からの移民船がこの港に到着し、移民者たちはブラジル全土に散って行かれたのです。コーヒー博物館でおいしいコーヒーを飲み、午後は百歳の方も訪ねられる日本人の老人ホームを訪

問しました。「天国へ行ける確信がある人はいいますか。」と聞いたところ、百名ぐらいの中で、十数名しか手が挙がらなかったもので、私は早速伝道メッセージをしました。十一日は朝拝会に出かけました。



教派を越えて教会の指導者たちが集まり、町と国の平和のため、日本人が救われるために祈ってくださいているのです。ここで、私は再臨が近い今日、教派を超えてクリスチャンがひとつになつて魂の刈り取りに向かおうという内容の説教を語りました。

十二日は連盟恒例の熟年修養会に出席しました。今までの最高の二〇〇人の方が集まってくださいました。開会のメッセージは、ブラジル生まれの滝谷良一先生がしてください、午後には、私が「体と心と霊の若返り」というテーマで語らせていただきました。

十三日と十四日は、イグアスの



自動車献品プログラム

▲あなたの家に使用しない車がありますか。JEMS自動車献品プログラムをご利用ください。税金免除の対象となります。車は走行不可能でもお受けいたします。

▲お宅まで業者が取りにいきます。

問合せ：213-613-0022

E-mail: info@jems.org

滝観光に出かけました。今年は例年の三倍の水量に増えているとのことで、世界最大級の滝を心ゆくまで味わい、神様の創造の業を体験し、一同大変感動しました。十五日には、斉藤先生のアバプロジェクトを見学しました。屋上にはサッカーとバスケットのコートが備えられ、恵まれない貧しい子供たちが勉強を教えてもらい、聖書を学び、共に遊んでいるのを見学しました。十六日は、歓送会で私達を送り出してくださいました。今回の旅において、将来のブラジル日系クリスチャンとアメリカ日系クリスチャンの親善交流のパイプが繋がったという確かな手ごたえを感じ、アメリカへの帰路に着きました。

第七回北加賛美大会

みんなが一つとなって

榊原宣行師



北カリフォルニアの第七回賛美大会は、十一月十二日にウォールナットクリーク日系キリスト教会で開催されました。初めて参加するという二教会を含め、過去最高の八教会十七グループが出演するという、たいへんな盛況ぶりでした。神様がこの北加に賛美の霊を注いでいてくださったことを思い、感謝いたします。

この賛美大会の特長は、出演するグループが実にバラエティに富んでいたということです。聖歌



隊やバンドやコーラスグループはもちろんのこと、管弦楽、フラダンス、韓国舞踊、手話賛美、そ

して今年には子供たちによるクワイヤやバンドも登場しました。実にバラエティに富んだ恵み豊かな



な北加賛美大会は、今から七年前、稲山昭子さんの強い思いで始まりました。稲山さんは北加の日系諸教会の一致と励ましを祈ってください、それが北加賛美大会として実を結び、今日に至っています。

今回の賛美大会の司会者をされた中浜一郎先生が、七年前という、超教派で取り組んでいた北加の伝道テレビ番組が終了した頃でした。」とおっしゃいました。確かにその当時は、超教派が一つとなって取り組んでいたテレビ伝道が終了し、北加の教会間の関係が薄れつつあった頃だったのです。それを知っていた稲山さんは、何とか北加の諸教会が主の名のもとに一つとなって欲しいと願い、JEMS主催の北加賛美大会を計画してくださいました。

過去の六回の賛美大会には、稲山さんは遠くロサンゼルスから必ず駆けつけてくださり、大きな笑い声を会場いっぱいに響かせていました。今年はまだそのお声を聞くことはできなくなり、ぽかーんと穴が空いてしまったようでしたが、天国への希望を改めて思い、主を賛美した時でもありました。彼女の意志はしっかりとここに受け継がれているのだという確信を持つことができました。

これからもこの賛美大会は、教団教派を超えて一つとなることのできる楽しい場として用いられていくことでしょう。そしてお互いに励まし合い、賛美の霊に満たされて、それぞれの教会へと遣わされて行くのです。そのような素晴らしい場を備えてくださったイエス様、そして稲山さん、ありがとうございます！



ベニンスラ・フリーメソジスト教会

フルタイムの日語部牧師募集

ハワイ・マウイ島にあるカフルイ・ユニオン教会では、次のような日本語部の牧師を求めています。

- ・日本語・英語に堪能であること
- ・牧師の按手を受けていること
- ・説教と指導力に優れていること
- ・牧会者としての心得を持ち、失われた魂へ情熱を持って追い求める者
- ・地域社会の若者へ伝道の重荷を負う者

カフルイ・ユニオン教会は、保守的な合同キリスト教会（OCC）で、その中で日本語部は、活動的な集まりです。現在、日本語部には、二十七名のアクティブ・メンバーがおり、会員の平均年齢は、七十歳と高齢ですが、若い母親や子供達も参加しています。

詳細は、左記の方へ問い合わせ下さい。

副牧師 ケン・タナカ

ken@kahuluiunion.org

八〇八一八七一一四四二二

または

牧師選定委員長

ロバート・タキタニ

八〇八一八七七一七七三四

すべての日本人にイエス様

JEMSディレクター

中馬リック



新しい年に向かおうとしている今、JEMS日語部を支援してくださっている皆様に深い感謝を表したいと思います。JEMSは、一九五〇年に二世の牧師達や信徒のグループによって始められました。彼らは地域の教会を励まし、日系アメリカ人を宣教師として日本へ遣わすことを願っていました。JEMSは、これらの宣教活動を六十年間続けてきました。二〇一二年に

四人が、アメリカにいたときに、クリスチャンになったということ。平田みほさんという方は、アメリカへの二週間の出張の時、吉谷礼子姉に導かれ、ロサンゼルス・ホーリネス教会の溝口牧師によって洗礼を授けられ、クリスチャンとなりました。どうかアメリカに短期滞在されている日本人の方々に目を向けて、伝道していく方法を探し出してください。日本人の永遠の命にかかわる問題です。イエス様を信じ、日語の教会で訓練された者達を宣教の使徒として私達が日本へ送り返すことができるとは、素晴らしいことではありませんか。

福音伝道に関して、もう一つ呼びかけたいことがあります。それは、日本に行つて、東北救援活動に参加することです。今東北の人達は日本や海外の宣教師たちから多くの援助を受けて、福音に対し、心を大きく開いているという話をたくさん聞きます。私達の同胞はあなたを必要としているのです。東北に行つて、イエス・キリストを証する絶好の時です。一、二年の中にこの扉は閉じられてしまいかもしれません。日本へ行つてみませんか。あなたがその思いに導かれたのなら、どうか私達にご連絡ください。

日本人たちの魂を捉えることがJEMSにおける第一の課題なのです。日本人が日本に住んでいて

も、アメリカに住んでいても、南アメリカに住んでいても、世界のどの国に住んでいても、私達の伝道の思いは変わりません。しかし私達は一人きりで、ビジョンを実現することはなかなか難しいのです。JEMS日語部の藤本三奈子が、皆様の働きを助け、各教会と連絡を取り合い、互いを結びつける役割をしております。彼女は、マウント・ハーモン修養会の日語部、賛美大会、時報発行などのために週四日間働いております。どうか彼女を覚えてお祈りください。彼女の給料は、皆様の尊い献金によって支えられていきます。どうか財政的にも協力してください。どうにお願いいたします。

私達は、今年一年の皆様のサポートとお祈りを心から感謝し、来る新しい年にさらにJEMSのビジョンが実現していくことを期待し、祈り続けます。



JEMSは日系人教会を訪問し、お互いに交流を深めていきたいと思えます。希望される教会はどうか日語部へご連絡ください。

感謝のことば

日語部コーディネーター

藤本三奈子



稲山姉から日語部を引き継いだのが、六月、不安な船出でしたが、神様の憐みと皆様のお祈りとサポートを頂いて、マウント・ハーモン修養会、賛美大会、時報の発行とJEMS日語部の働きが継続できましたことを感謝するばかりです。何よりもボランティアとして尊いお奉仕をして下さった兄弟姉妹、言葉には言い表せない感謝の思いでいっぱいです。

二〇一二年も私達の働きを大いに用いて下さり、豊かな実を結ぶことができようにお祈りください。主がなさる素晴らしい技に期待して。

【編集後記】

よいお年をお迎えください。

神の御子は今宵しも ベツレヘムに生れたもう。二〇一一年が猛スピードで駆け抜けていきます。人々の喜びも悲しみも痛みも、時がかき抱いて。十二月にイエス様がお生まれになったということには、諸説ありますが、それでも年が暮れようとするとき、イスラエルの寒村に神の御子がお生まれになったことをお祝いし、新しい年に向かうことができることは、神様からの時になつたお恵みであると思われれます。ただ皆様におりがとうです。

西原黎子

JAPAN AFFILIATES

Dr. Akira Hatori-TV Radio Evangelist
 Rev. Nobumichi Murakami-PBA Radio/TV
 Rev. Timothy Himei-Soden,JEMS Japan
 Coord.
 Rev. Paul Ariga-All Japan Revival Mission
 Rev. Yoshihiro Kishi-Mission 2001
 Rev. Tadao Ogawa-Social Worker
 Nao & Barbara Hanada-Director of AiGJ
 Josh Sasaki-Music, Japan

US AFFILIATES

Rev. Chandler Im-Billy Graham Center
 Ray Sidney, Amy Lachica, John Comfort-
 Here to Praise Ministries
 Rev. Roy & Nana Yamamoto-USA
 Evangelism
 Patrick Zukeran - Probe Ministries

JAPAN MISSIONARIES

Gayle Gutierrez-Machida
 Michael & Chris Mason-Sakai City
 David Mills-Yokohama
 Lily Suzuki-Amakusa
 John and Kazumi Van
 Farowe-Nagoya
 Nozomi & Kevin West-Nagoya
 Anne Winters-Omochanomachi
JEMS BOARD OF DIRECTORS
 Larry Kuromiya-President
 Tony Kim-Vice President
 David Akiyama-Treasurer,
 Don Yamagishi-Secretary
Members at Large: Stan Date,
 Bob Matsushima, Donna Mukai,
 Greg Oda

JEMS ADMINISTRATION

Rev. Dr. Richard Chuman-Executive
 Director
 & Minister at Large
 Mary Tabuchi-Office Administrator
 Daichi Tsuruta-Senior Accountant
 Megumi Sasaki-Accounting Assistant
 Darryl Wong- Missions Administrator
 Rev. Sam Tonomura-55 Plus, Men 4
 Missions
JAPAN MISSIONS
 Rev. Dr. Richard Chuman-Interim Director
SOUTH AMERICA MISSIONS
 Rev. John Katagi-Director
 Justine Morey-Missions Coordinator
AACF ADVISORY BOARD
 Bruce Chow, Rev. Kevin Hayashida,
 Larry Kuromiya, Ilene Miyahara,

AACF CAMPUS MINISTRIES OF JEMS

Interim AACF Director-Leadership Team
 Leadership Team-Rev. Melanie Mar
 Chow, Rev. Victor Quon
AACF CAMPUS MINISTERS
 Chong Ahn, Dana Chau, David Fong,
 Arnie Ong
**AACF VOLUNTEER CAMPUS
 MINISTERS**
 Bruce Chow, Ashley Donald, Evelyn Fan
 Encarnacion, Nathan Fong, Karen
 Freese, Monica Gon, Warren Hino, Ed
 Kwong, Adrian Li, Jonathan Liu, Mark
 Quan, Rev. Carolyn Shimabukuro, Jesse
 Terasaki, Anthony Yuen,
AACF RESOURCE
 Ed Lee, Ming Lee, Young McCann, Alan
 Oda,
 Donna Lee Oda, Rev.Stephen Sato,

MUSIC AND MEDIA

Lowell E. Sue-Director
NICHIGO
 Minako Fujimoto-Coordinator
**PACIFIC NORTHWEST
 (STATE OF WASHINGTON)**
 Rev. Carolyn Y. Shimabukuro-
 PNW Director
SENIOR & MEN 4 MISSIONS
 Rev. Sam Tonomura-Director
SPORTS AND RECREATION
 Matt Asami-Director
 Marc Takamine-Resource
JEMS JOURNAL
 Emily Okada-Layout & Graphic
 Designer

JAPANESE EVANGELICAL MISSIONARY SOCIETY**948 East Second Street****Los Angeles, CA 90012****213.613.0022, 213.613.0211 FAX****E-Mail: info@jems.org www.jems.org****RETURN SERVICE REQUESTED**

(ADDRESS LABEL)

JEMS バレー ボール大会

2月25日(土)

エルカミーノ・カレッジ体育館

申込み締切り：1月21日

申込用紙・詳細：www.jems.org問い合わせ：matta@jems.org

電話：213-613-0022



切り取り線

ジャーナル・時報のEメール配信

E-mail アドレスをinfo@jems.org まで
 お知らせください。又は下記にメールアドレス
 をご記入の上、同封の封筒にて JEMS まで、
 郵送ください。

名前：

住所：

E-mail アドレス：

目次

P 1 : 教会の「受肉」	錦織学師
P 2 : クリスマス随想	島田知子
P 3 : ブラジル親善旅行	藤井肇師
P 4 : 北加賛美大会報告	榊原宣行師
P 5 : JEMS 総主事感謝録	中馬リック師
感謝のことば	藤本三奈子
編集後記	西原黎子